

歴史と文化を考えよう

'98 江東区文化財保護強調月間



名所江戸百景「亀戸天神境内」

太田記念美術館蔵

下町文化

第 198 号

平成10年9月15日

発行

江東区教育委員会
生涯学習部生涯学習課

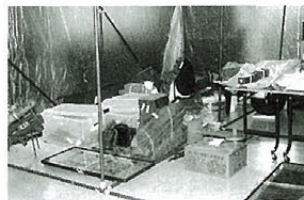
今年もまもなく文化財保護強調月間を迎えます。教育委員会では、10月4日から11月7日までの1か月間、「歴史と文化を考えよう」をテーマにさまざまな催しをおこないます。歴史と地域のなかではぐくまれた民俗芸能や伝統的な「技」の実演公開などをご覧いただき、江東区を再発見していただくというものです。

ぜひこの機会に、江東区の歴史と文化を堪能ください。

文化財保存強化デー 10/5(月)・10/7(水)

殺虫・燻蒸サービス

木や紙、布などを素材とした文化財は、虫喰いやカビによる被害を受けやすく、放っておくと被害が進む一方です。文化財係では、芭蕉記念



燻蒸前の様子

館において皆さんがをお持ちの古文書や絵画、木彫刻品などに24時間の殺虫・燻蒸サービスをいたします。大切な文化遺産を守るため、ぜひこの機会をご利用ください。ご希望の方は9月30日(水)までに文化財係まで電話にてご連絡ください。

公開講演会 10/7(水)・10/14(水)

文化財の保存に向けて

文化財保存に関する2回にわたるお話しです。7日は、日本と東南アジアの比較をもとに文化遺産の現状と保存について、14日は石造物や建造物、さらに身近にあるモノをいかに保存していくかといった内容です。

この機会に身近にあるモノの保存について考えてみてはいかがでしょうか。

講演内容

講演 「文化財保存のあり方」

講師 江東区文化財保護審議会委員

白石 和己

日時 10月7日(水)

午後6時30分～8時30分
会場 教育センター2階第3研修室

*

講演 「文化財保存の方法」

講師 東京国立文化財研究所

名誉研究員 見城 敏子

日時 10月14日(水)

午後6時30分～8時30分

会場 教育センター2階第3研修室

参加ご希望の方は住所・氏名・電話番号を明記のうえ、ハガキ(電話

も可)で文化財係までお申込みください。

伝統工芸展 10/29(水)・11/3(火)

区内に住むさまざまな職種の職人さん。その「技」を紹介する伝統工芸展を、10月29日から11月3日まで「工匠館」(森下文化センター内)でおこないます。長年にわたって受け継がれてきた「技」に、数々の作品展示・実演をとおして接することができます。

会場は展示・解説、実演公開、職人体験の3コーナーに分けられています。展示は、職人さんが普段の仕事で使っている道具や作品を展示して、その仕事内容を知っていただくというものです。体験コーナーでは、

職人さんに弟子入りしたような気分を味わえます。

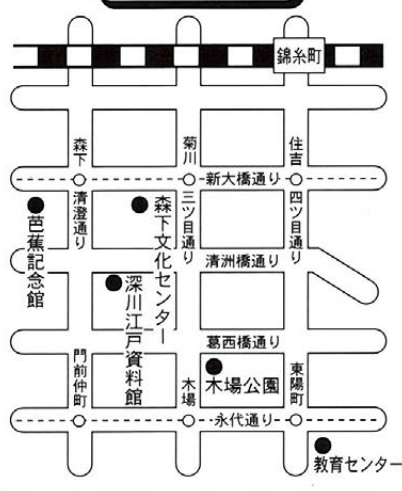
なお、実演公開の日程については、次号(10月15日号)に掲載いたしますので、ご参照ください。

伝統工芸品

チャリティーバザール

伝統工芸保存会による作品販売のコーナーで、毎年多くの作品が並びます。数少ない機会ですので、ぜひ立ち寄り、ご覧になってください。

会場案内図



問合・申込先
生涯学習課文化財係

住所 〒135-8383 江東区東陽4-11-28
☎ 3647-9111 内線3361~3

強調月間協賛事業

時雨忌(芭蕉忌)講演会

10月12日は松尾芭蕉の命日です。

芭蕉記念館では、この日にちなんで時雨忌(芭蕉忌)講演会を開催します。

日時 10月10日(土) 午後2時より

会場 1階会議室

演題 俳聖芭蕉像の形成

講師 早稲田大学教授 堀切 実

定員 100人(先着順)

申込 9月10日(木)より記念館窓

口または電話にて受付

芭蕉記念館から 芭蕉記念館俳句会

日時 9月22日(火) 午後1時30分

会場 2階研修室

内容 兼題 秋季雑詠3句

席題なし

対象 区内在住・在勤の方50人

費用 無料。句報の送付をご希望の方は80円切手貼付宛先明記の封筒をお持ち下さい。

締切 9月21日(月)

申込 窓口または電話で

第二回 江東ふるさと歴史研究 論文発表会

「江東ふるさと歴史研究」は、区民の皆さんが、ふるさと江東区の歴史や文化について調査・研究したことを論文にまとめ発表するためのものです。

平成10年度の入選論文は次のとおりです。

○入選論文

「白魚漁と江東区」 富永文昭さん

「坪井信道と安懷堂・日習堂の塾生達」 猪狩明美さん

「明治維新直後の東京の米穀流通について―問屋組合設立を巡って―」

増田宏さん

なお、入選の論文発表会を下記のとおり開催いたしますのでぜひご来場ください。



日時 10月11日(日) 午後1時から
会場 深川江戸資料館 2階小劇場
問合せ 生涯学習課文化財係

文学講習会

(A) コース 近代俳句の歩みⅢ

碧梧桐から、放哉、山頭火へ

期間 10月22日(毎週木曜日) (5回)

時間 午前10時30分～12時

講師 俳人・「耀」(かがやき)

主宰 火村 卓造

(B) コース 『おらが春』を読む

期間 10月22日(毎週木曜日) (5回)

時間 午後6時30分～8時

講師 城西大学教授 黄色 瑞華

(A)・(B) 両コースとも

対象 区内在住・在勤の方

定員 50人(多数の場合は抽選)

受講料 無料(教材費は実費)

申込 往復ハガキに郵便番号、住所、

電話番号、氏名、年齢、受講希望

望コースを明記し芭蕉記念館へ

* (A)・(B) 両コースとも希望す

皆さんの「声」を募集します

募集します

歴史と文化の情報紙「下町文化」は、11月号で第200号を迎えます。文化の香り高い街づくりをめざし、昭和56年4月の創刊号以来、さまざまな企画や記事、街の話題などを取り上げてきました。その

中には、皆さんからお寄せいただいた情報も少なくありません。200号を通過点として、新たな紙面づくりのためにも、皆さんの声を是非お聞かせください。「下町文化」への要望・感想など何でもかまいません。封書かハガキにて生涯学習課文化財係「下町文化」担当まで。よろしく願います。

計報

江東区登録無形文化財(工芸技術・石工) 保持者新田満蔵氏(87歳、牡丹1-16-3)は、去る7月31日に逝去されました。慎んで追悼の意を表します。

る場合は別々のハガキで
締切 10月8日(木) 必着
◇〒135-0006 江東区常盤1-6-3
江東区芭蕉記念館
電話 (3631) 1448
工匠館から
工匠館で毎月第一・三日曜日
に行っています「伝統の技 実演公開」は、10月および11月の第一日曜日はお休みいたします。伝統工芸展の実演公開にご期待ください。

民俗芸能公開 10/4日(日)・10/18日(日)

江東区に伝わる民俗芸能を公開いたします。

木場の筏師(川並)によって始められた「木場の角乗」、川並衆の労働歌「木場の木遣」、佐賀町の倉庫街で働く人びとから生まれた「深川の力持」、砂町地域の人びとによって伝えられてきた「砂村囃子」など、数百年もの間、区内各所で受け継がれてきた民俗芸能です。これらは、江戸時代に仕事の合間や庶民の生活の中から生まれたもので、地域に根ざした伝統の「技」といえます。

現在、民俗芸能は保存会や睦会の皆さんの努力により継承・公開されています。会員の皆さんによって守り伝えられてきた江東区の民俗芸能を、ぜひご覧ください。



富岡八幡の手古舞



木場の角乗

4 演目は次のとおりです。

10月5日(日) 角乗・力持公開

午後1時〜4時

木場角乗保存会

「木場の角乗」

深川力持睦会

「深川の力持」

10月18日(日) 民俗芸能大会

午前11時〜12時

木場角乗保存会

「木場の角乗」

午後1時〜3時40分

木場木遣保存会

「木場の木遣」

砂村囃子睦会

「木場の木遣念仏」

「砂村囃子」

「獅子舞」

富岡八幡の手古舞保存会

「富岡八幡の手古舞」

深川力持睦会

「深川の力持」

*会場はいずれも都立木場公園

民俗芸能をばればなし

戊辰戦争と川並

「角乗」「木遣」を受け継いできた木場の筏師・川並。ほとんど記録に残されていない川並衆の姿の一端を、ここに紹介しましょう。

慶応4年(1868) 1月の鳥羽・

伏見の戦いで新政府軍に敗れた徳川慶喜は、海路江戸に戻り、上野寛永寺に謹慎します。そして4月には江戸開城となりますが、その直前の3月、旧幕府の砲兵方が「木場川並衆入足」100人を運送隊に雇い上げたいと町奉行に掛け合いました。町奉行所からの問い合わせに対し、深川吉永町(現平野3・4丁目)の又蔵らは、川並の仲間は165人いること、職業柄「川中」の御用なら引き受けることなどを返答しています。

その結果、川並を運送隊に雇うことになりました(「勅使下向一件」都公文書館蔵)。川並衆は徳川家の凋落をどう見ていたのでしょうか。

砲兵方が川並を使ったのは、大砲を筏もしくは舟で運ぶためだったと思われまます。この時、川並衆は労働歌である「木遣」を歌っていたのかもしれません。

名古屋での「江戸力持」興行

江戸時代、「力持」は職業的な興行もしていました。

小寺玉晃の「見世物雑誌」(「新燕石十種」五)に、文政6年(1823)

1月12日から名古屋で「江戸力持」が興行されたことが記されています。そこには「人を船に乗せてさし上、或は俵を六表腹にのせなど、色々となす」とあります。その後も興行は度々行われ、同書には「本所小西鉄之助」「四ツ目 木村与五郎」などの名が見えます。また、左図のように桶7つを積み、上から落ちる人を受ける、という技も行っていました。こうして、名古屋での興行は大いに評判を博しました。

文政年間(1818〜30)は「見せる技」として「力持」の全盛期だったのです。

